様式３

学 校 番 号

48

令和４年度　　学校評価書　　（計画段階・実施段階）

福岡県立福岡工業高等学校（全日制課程）

自己評価

学 校 運 営 計 画 （４月）

評価（総合）
A

学校運営方針	文武両道を校是とし、豊かな人間性と創造的な知性を備え、社会の発展と文化の創造に貢献できる工業人材を育成する。 1　校訓「質実剛健　自律　創造」を体現する生徒の育成を目指した教育活動を全教職員で推進する。 2　次代を担う工業人材を育成するリーダー校としての責務を果たすべく、ものづくり教育を通して工業高校として魅力ある学校づくりに邁進する。

昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標
昨年度は、コロナ禍で制限がある中、「新しい生活様式」に基づき可能な限りの教育活動を展開することができた。また、部活動生徒の活躍や進路実績についても成果を得た。 課題としては、各分掌、各学年、各学科相互及び職員全体のコミュニケーションをさらに深め、それぞれの目標達成に努めることである。そのことにより、本校のさらなる飛躍を期待できる。	自ら学ぶ力の育成	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善、教科指導力の向上
		新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと観点別評価の定着
		ICT環境及び教材の活用による個別最適な学び、協働的な学びの推進
	自ら考え行動する力の育成	積極的生徒指導による自律心の育成、規範意識の向上
		教職員の連携強化によるいじめ事案の早期発見及び対応、教育相談体制の充実
		生徒会組織の活性化による生徒の主体的な活動の推進と学校行事の充実
		部活動のさらなる活性化によるTeam　Fukkoの意識向上
	キャリア教育の充実と進路別指導体制の確立	キャリアデザインノートの活用による自己実現の支援
		進路意識の向上を図るガイダンス等関係行事の効果的実施
		進学及び企業就職に対する指導の充実、公務員指導体制の確立
	工業教育の充実	各学科の特徴を生かした教育活動の推進
		スマート専門高校、実習棟建替を契機とした実習内容の見直し
		競技大会、コンテスト等の入賞及びジュニアマイスター全員取得に向けた指導体制の充実
		専門的指導力向上のための職員研修の強化

評価項目			具体的目標	具 体 的 方 策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	学務	指導力向上	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を図る。	各教科・科目の特性を活かし、協働的で対話的な授業展開を推進する。	A	A	A	生徒一人一台のタブレット端末が使用できる環境が整ったため、生徒の学習意欲を更に高める教職員のICT機器のスキルアップが必要である。
				生徒の学びをより充実させるために、授業方法や考査問題での出題方法の改善を図る。	A			
				非常時における学習活動の対応および個別学習推進に向けたオンライン学習環境の充実を図る。また、研修図書課・メディア課と連携し、ICT機器活用に関するスキルアップを図る研修を実施する。	B			
		評価の改善	新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと観点別評価の定着を図る。	年間指導計画の書式を改訂する等、各教科との連携を図りながら、観点別評価の定着を行う。	A	A		生徒の日頃の学習活動や取組みを大切にするため、観点別評価の定着をより図る。
				新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教育課程委員会と協議し、教育課程をより充実させる。	B			
				計画的に学習活動や評価ができるように、授業時数を確保し、適切な時期に定期考査を実施する。	A			
	研修図書	研修	教育力向上や観点別評価の定着を図る研修体制を整える。	研究授業や公開授業の案内を積極的に行い、授業改善と教科指導力の向上を図る。	A	A	A	各種の教育に関する情報を先生方と共有して指導力の更なる向上を図る。
				基本研修や各種研修を受けられた先生方より情報を提供して頂き教育力の向上を目指す。	B			
		図書	図書館利用の促進に努めると共に、図書委員を中心とした広報活動を活性化させる。	利用しやすい蔵書整備を検討すると共に新刊書や専門書等を充実させる。	A	A		図書委員に自主的な活動を促し魅力ある図書館作りに励む。
				校内外での各種活動を通じて図書委員の自覚を養成し、委員会活動の活性化を図る。	A			
		人権・同和	教育活動全般において人権意識の涵養に努める。	人権教育特設授業を特に充実させ、生徒の人権意識向上を図る。	A	A		学校全体で人権意識の向上に努める環境作りを行う。
				教職員に人権教育に関する研修会への積極的な参加を呼びかけ、意識と指導力の向上を図る。	A			
	庶務	学校行事	学校行事の有効性を確認しつつ学校教育力を高めるために、円滑な運営を展開する。	各学校行事後の各係等からの反省を活かし、魅力ある学校行事を検討する。	A	A	A	機材等にラベリングを行い、貸し借り簿の簡略化による記入の徹底を行う。コロナ禍による急な行事変更に対応できる運営計画を行う。
				他の校務分掌と積極的に連携し、スムーズな学校行事運営を行う。	A			
				機材等の貸し借り方法を整理し機器の所在を明らかにするとともに、充実を図る。	B			
		PTA・奨学金	魅力ある学校づくりのために効果的なＰＴＡ活動を展開する。	ＰＴＡ活動を通じて保護者と学校との連携を深め、より効果的な教育活動を行えるようにする。	A	A		PTA活動を通じて、文化祭やPTA研修など保護者が学校に関わることのできる機会をより充実させる。
				早期の情報提供に努め、より円滑なPTA活動が行えるように努める。	A			
				より円滑な奨学金の案内ができるように、担任と連携を密に行う。	A			
生活部	生徒指導	生活指導	積極的生徒指導により、基本的な生活習慣を確立させ自律心の育成、倫理観を含めた規範意識の向上を図る。	新型コロナウイルス感染防止の指導を行う」と共に、自己の学校生活を考えさせ、規範意識やモラル、マナー向上を図る。	A	A	A	感染対策を通して規範意識を向上させることができた。5分前行動を徹底し、昨年度より遅刻を減少させることができた。次年度は「遅刻ゼロ」を目指したい。
				職員間で情報共有を積極的に行い、初期対応を軸にきめ細やかな指導により保護者・生徒理解に努め、安全・安心な学校づくりを目指す。	A			
				『遅刻ゼロ運動』を通して、全生徒に常に５分前行動を徹底させ、心に余裕を持った行動で重傷事故防止（交通事故や授業中のケガ等含む）に努める。	B			
		教育相談	教職員の連携を強化し情報共有を行い、いじめ事案の早期発見及び対応、教育相談体制の充実を図る。	全職員に本校のいじめ防止基本方針の周知を図り、いじめ事案に対し早期発見・早期対応を行う。	A	A		いじめ事案に対する初期対応として早期にSCやSSW等の専門家の助言を仰ぎ家庭とも連携し適切な対応を行う。
				学校生活アンケート等での事案に対して生徒から細やかな聞き取りがしやすい教育相談体制を充実させる。	A			
				いじめの事案に対し、生徒や保護者との懇談にて情報収集し、職員個人の判断にならず組織的に対応を行う。	A			
	生徒会	生徒会活動	生徒の主体的な活動が促されるような、委員会活動を行い学校行事や部活動を活性化させる。 また、活動を通して成功体験を称賛し、Team Fukkoの意識向上を図る。	生徒会長、生徒会執行部、応援リーダーを中心に各委員会及びリーダー団と連携し、生徒が主体的に活動できる学校行事を企画運営する。	A	A	A	コロナ感染対策を行いながら、学校行事等を生徒が主体で実施できるように事前準備等をしなければならない。
				委員会活動を充実化させ、生徒の主体的な活動を促進する。また、各機関と連携することで、より成功体験を増加させる。	A			
				校内外の清掃を徹底実践することで生徒の自己肯定感を向上させる。ＨＲ、部活動、委員会との連携も図り、地域に愛される学校を保つ。	A			
	保健	健康安全指導	生徒の心と体の健康安全教育の充実に努め、生徒自身が自分の健康について考え、安心して学校生活を送るための支援を行う。	身体測定と各種健診の円滑な実施、結果の随時連絡、治療勧告、個別の保健指導を充実させる。	A	A	A	次年度の身体測定と各種健診も事前準備を入念に行い、今年度以上に円滑な実施を図る。感染症対策のため実施形態変更が生じた場合も柔軟に対応できるようにする。次年度も感染症予防のための手洗い・消毒・教室の換気など全職員の共通理解のもと実施する。生徒保健委員会活動のさらなる充実を図る。
				心の健康相談、感染予防、救急時や事後措置の適切な対応を行う。	A			
				生徒保健委員会活動を計画的に行い、安心かつ安全な学校生活づくりに取り組ませる。	A			
		環境整備	環境整備を通して生徒の自己肯定感を向上させ、地域に愛される美しい学校を保つ。	校内外の清掃の徹底を図り、ごみ分別やリサイクル活動を推進する。	A	A		次年度もクラス、学年、生徒美化委員会それぞれの単位で校内外の美化活動を日常的かつ計画的に行って生徒の生活環境を整え、地域に愛される学校を目指す。学校行事においても全職員、全生徒で環境美化をさらに推進する。
				ホームルーム活動や部活動と連携し、清掃活動の更なる充実を図る。	A			
				生徒美化委員会活動を計画的に行い、清潔な学校づくりに取り組ませる。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・タブレット使用について 教職員のスキルアップを次年度課題としているが、少し遅いのではと思う。
A	・図書の蔵書の数、種類は十分ですか ・図書委員の研修が必要と思う。
A	・コロナ禍でも今年度は学校行事が多く出来て良かった。先生方のおかげです。
A	・感染者に対して差別的な発言や行動が無い様望みます。 ・自転車関連の苦情は私も聞いている。また、事故対策などの指導について情報共有してほしい。部活動での「いじめ」について、先生方の早期対応が重要だと思う。
A	・女子のチームリーダーが増える事を望みます。
A	・特になし

進路部	就職指導	進路保障	生徒の進路意識の向上を図り、自己の適性や希望進路に配慮した指導助言を行い、進路実現への支援を行う。	生徒一人ひとりの進路に関する情報や学習状況などをクラス・学年・学科・コースと共有を行い、キャリア教育の充実と組織の強化を図る。	A	A	A	生徒自身が進路実現に向けた学校生活の充実を図り、目標設定に向けた指導助言・支援の強化を図る。	A	・進路関係はすばらしい結果です。
				進路の手引きやキャリアデザインノートの活用により、生徒のキャリア形成と進路実現に向けた意識付けを行い、自己目標実現の支援を行う。	A					
				大学や専門学校、公的機関や企業などを活用した各種進路関運行事の充実と効果的な実施を目指す。	A					
		就職指導	キャリア教育プログラムの実践から、各学年の進路目標に応じて活動を充実させ、卒業後に社会人・職業人として自己実現可能な基礎能力を養う。	進路ガイダンスや応募前職場見学などの推進・充実に努め、生徒一人ひとりの進路意識の高揚と学校生活の充実を図る。	A	A		社会人・職業人としての基礎能力の向上と意識の高揚に向け、各学年ごとのキャリア教育プログラムの充実と実践により、生徒の進路目標の具現化を図る。		
				公務員希望者への指導体制を充実をさせ、明確な志望動機を確立させる。また、課外や模擬テストを通して一人ひとりの学習状況を把握し、指導を充実させ合格率の向上を図る。	A					
				就職に関するきめ細かな進路相談と生徒の個性や特性を活かした指導に努め、1次での内定率９５%を目指すとともに就職１００%を目指す。	A					
	進学指導	情報の的確な提供	指導目的を明確にしたガイダンスや説明会を企画、実践し、進学希望実現をサポートする。	ガイダンス等を計画的に実施し、進路目標にあった志望校の選択を支援する。	A	A	A	生徒が自分の適性や将来像に適した進路を実現するための支援を、学科や担任とともに行えるように情報の共有を強化する。	A	・特になし
				入試出願や奨学金の手続きが正しくできるよう必要な情報を提供する。	A					
				課内での情報共有を密にし、出願手続き等のチェック体制を強化する。	A					
		学習力の向上	希望進路の実現だけでなく進学後の学習に不足がない学力を身につけさせる。	個別面談等で進学目的を明確にさせて学習意欲を引き出し、向学心を養う。	A	A		課外や校内模試を効果的に運用して基礎学力の充実を図るとともに、多様な入試制度に対応できる準備を早めにさせる。		
				進学課外を計画的に実施して基礎学力の充足を図る。	B					
				本校の特長にあった入試制度での進学先決定率９５%を目指す。	A					
メディア広報部	メディア	情報活用	生徒への情報活用能力の育成を行う。	生徒を主体として学校行事の配信準備や運営を実施する。	A	A	A	福工チャンネルやインスタグラムの活用について、生徒メディア委員の主体的な活動になるようにしていく。	A	・ＳＮＳに関して、専門講師の指導も必要ではないでしょうか。（特にモラルに関して）また、技術的な事と共に法的な指導もお願いしたい。
				YouTube「福工チャンネル」を通じて学校の魅力を発信する。	B					
				Googleクラスルームを活用して、情報共有が行われるようにする。	A					
		授業改善	教室のプロジェクター、クロームブック等を活用した授業改善への支援を行う。	授業改善に向けた機器の充実・整備や支援を行う。	A	A		一人一台端末の活用について、授業や連絡等で活用できるようにICT支援員とともに研修を行う。		
				家庭学習の充実に向けたICT活用の職員研修を実施する。	A					
				県の校務サポートと連携して機器の更新や故障対応を行う。	A					
	広報	広報活動	本校の特色ある教育活動の情報を中学生や保護者に積極的に公開する。	Webページの掲載計画を立て、最新情報を発信する。	B	A	A	Webページの情報発信では各部署との連携を図り、タイムリーな情報が掲載できるように努める	A	・ホームページが見やすい。更新が楽しみ。
				出前授業や体験入学では、中学校との連絡を密に行う。	A					
				高校一日体験では、各学科・コースの特色ある実習を積極的に紹介する。	A					
学年	１学年		栄えある福工生としての自覚と誇りを涵養し、自ら考え、行動しようとする主体的な態度を育む。	ともに学び合い、励まし合い、許し合い、切磋琢磨して高め合う集団をつくる。	B	B	B	協力し、他を認め合う集団作りに取り組む。自ら課題を設定し、解決する生徒を育てる。	A	・高校生としての自覚がまだまだとありますので、引き続き指導をお願いします。
				困難さを改善すべき課題ととらえることができる生徒を育成するためにキャリア教育を充実させる。	B					
				保護者や各分掌との連絡を密にし、職員間で情報を共有して積極的な生徒指導を行う。	B					
	２学年		すべての生徒が主体的かつ協働的に取り組み、互いを尊重し、伸びゆく学年の形成。	挨拶や清掃活動の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を図る。	B	A	A	積極的な挨拶、スマホの適切な使用方法を関係部署と連携し学年全体として指導に取り組む。	A	・特になし
				個々の能力を最大限に生かして積極的にチャレンジする機会を設け、主体的に活動する生徒を育成する。	A					
				3年次の進路実現のため、基礎学力の定着を図り、資格取得や検定試験に積極的に取り組む生徒を育成する。	A					
	３学年		自身の適正に合った進路の選択とその実現に向けて、必要な能力・素養の修得に自ら積極的に取り組むことができる個人の育成と、学年の形成。	最上級生に相応しい言動を心掛け、日々の授業や特別活動に真摯に取り組むことができる生徒を育成する。	A	A	A	基本的な生活習慣の確立。進路実現に向けての学習活動だけでなく部活動や資格取得などにも積極的に取り組ませる。	A	・特になし
				課題研究・体育祭等に福工生としての集大成を飾るべく情熱を注ぐことができる生徒を育成する。	A					
				保護者や各分掌との連絡を密にし、職員間での情報を共有して生徒の有機的な指導に活かす。	A					
専門学科	染織デザイン科		社会人として通用する基本的生活習慣の確立、基礎的な学力の向上及びキャリア教育の推進を図ると共に授業や資格取得を通して学習方法を取得させ学習意欲を向上させる。	ルールやマナーの大切さを理解させ、行事を通じて責任を持って機敏に行動できる実行力の育成と達成感の経験を通じて意欲向上の充実を図る。	A	A	A	デザイン公募への入選微増。 資格取得５%増加はあと一歩のところだったので来年度は更なる取り組みの強化を図る。	A	・特になし
				個別対応指導を中心に、進路意識の高揚を図り、１次応募による進路内定率100%の実現を目指す。	A					
				授業を工夫し、興味関心を持たせ、デザイン公募への興味をもたせ応募させ、入選作品の増加を図る。また、資格試験合格率前年度比５%増、色彩検定全員合格と文部科学大臣賞受賞を目指す。	B					
	建築科		基本的生活習慣を確立させると共に、建築技術者として社会の発展と文化の創造に貢献できる工業人材を育成する。	建築施工管理技術検定受験者の全員合格を目指し、関連授業の充実と指導体制を確立する。	B	A	A	各授業のデジタル教材を科で共有し、内容を充実させ授業を発展させていく。卒業後の２級建築士に合格できる力をつけさせていく。	A	・特になし
				ICTを積極的に活用し、観点別評価や、個別学習ができる教材開発、研究を行う。	A					
				社会人として通用する規範意識や時間管理、言葉遣い等の基礎基本を確立させる。	A					
	機械工学科		工業技術や資格取得に興味・関心を持たせ、進路に対する意識向上を図るとともに、ものづくりを通して社会に貢献する意識と自らが進路を決定していく態度を身につけた生徒を育成し就職内定率100%を早期に達成する。	時間厳守、言葉遣い、整理整頓、挨拶等、社会人として必要な基礎・基本を指導する。	A	A	A	挨拶や時間厳守など社会人の基本となる指導は十分にできている。次年度も進路目標達成に向け指導体制の充実を図る。資格取得では難度の高い試験に合格者も出しているが、全体の合格率は不十分であるので補習内容の見直しを行う。	A	・特になし
				資格取得の目的を明確にし、自己のスキルアップのための資格取得に積極的に取り組ませる。	B					
				授業担当者間で十分な連携を図り、教員の専門性を高めるとともに、学力を向上させる。	A					
	機械工学科 工業進学コース		工業系大学進学に特化したコースの特徴を活かし、実習・課題研究を通して、未来の工業界を担う研究者・開発者としての志を育成する。	アダプティブラーニングを積極的に取り組むことにより進路意識を高め国公立大学・高専・難関私立大学への進学率７０%を目指す。	B	A	A	国公立・高専・難関私立大学への進学率７０%を目指し取り組んだが、約６８%の合格しか達成できなかった。次年度はキャリア教育の充実を図り、進路意識の向上を狙う。 生徒一人ひとりの学習に応じた課題を提供はしたが、学習の理解度にばらつきがでた。次年度は自宅学習の意識を高める必要がある。	A	・特になし
				コースの特徴である少人数制の授業を活かし、生徒の興味・関心を持たせ、自ら学習、行動できる生徒の育成を目指す。	A					
				実習や課題研究を通して、ものづくりに必要な技術・技能の習得や工業系大学に進学する上で必要な基礎学力の習得を目指す。	A					
	情報工学科		基本的な生活習慣や自己学習力、課題解決力を身につける教育活動を充実させ、ものづくりや競技会に情熱をもって取り組み、情報化社会で活躍する生徒を育成する。	知識の定着や技術を高めるために、情報技術の進展に対応した教材開発を行う。	A	A	A	ICT教材の活用を工夫し、より分かりやすい授業展開ができている。国家資格取得に向けた体制づくりを行っていく必要がある。	A	・特になし
				情報技術の進展に対応した実習教材の開発やICTの活用により、学習意欲を高める指導をする。	A					
				担当教員間で連携を密にとり、生徒の情報共有を徹底し、細やかな指導を行う体制づくりをに取り組む。	A					
	環境化学科		基本的な生活習慣や自ら学ぶ力を身に付けさせるとともに、化学技術者として環境問題に興味関心を持ち自ら課題を見つけ解決できる人材を育成する。	時間厳守や整理整頓、報告・連絡・相談の指導を徹底し、社会人として必要な能力の育成を図る。	B	B	B	新しい実験装置の導入に伴い年間の実習計画の改善を行う。社会人として必要な能力の育成を図るための指導だけではなく生徒たちが自然とできる環境づくりを行う。	A	・特になし
				自ら考えて学習に取り組む力を育成するために、観点別評価を意識した授業改善や実習内容の検討を積極的に行う。	B					
				生徒一人ひとりに応じた、きめ細やかな進路指導を行い、内定率100%を目指す。	A					
	電気工学科		電気技術者として社会に貢献する意識と自立心並びに自己の目標を持てるよう日々の学習活動を充実させる。また、全教育活動を通して、何事にも積極的に取り組むことができる向上心を持つ生徒を育成する。	積極的に授業改善に取り組み、電気技術者として必要な学力の定着を図る。	A	A	A	高圧実習装置の導入に伴い、年間の実習計画の改善を行う。危険予測、安全第一に考えられる電気技術者の育成に努める。	A	・特になし
				資格に対する生徒の意識を高め、第二種電気工事士の全員合格を目指す。	A					
				ものづくりを通して自ら考え、行動することの大切さを気づかせるとともに、想像力や表現力を身に付けさせる。	A					
	都市工学科		土木技術者として、社会性やコミュニケーション能力の発揮できる生徒の育成を目指し、自信と誇りを持ち何事にも積極的に挑戦する人材を育成する。	基礎学力の向上を目指し、聞く力・話す力・考える力の育成を図ると共に、自ら判断し行動できる力を育成する。	B	B	B	実習棟改築に伴い実習内容の工夫や改善を行う。社会に貢献できる土木技術者の育成に努める。	A	・特になし
				学ぶ環境を整え、時間厳守や身だしなみ等、基本的生活習慣を確立させ、社会に貢献できる生徒の育成に当たる。	B					
				教員間で生徒に関する情報共有を密にとり、生徒が希望する進路を確実に実現させる。	A					
	電子工学科		電子技術者として専門力を身に付けさせるとともに、基礎的生活習慣の定着を図り、心身ともに健康であるための体力や協調性、豊かなコミュニケーション力を育成する。	実習・課題研究において、安全教育と整理整頓(工具の管理、清掃)の徹底を図ることで技術者としての基礎を身に付けさせる。	A	B	B	問題解決能力・プレゼンテーション能力を身に付ける授業と資格指導でのペーパーレス化に生徒一台端末を活用する。	A	・資格取得を通じて、社会との関わりを指導して欲しい。資格取得が勉強の目的にならないようにお願いします。
				観点別評価によって生徒の問題解決能力及びプレゼンテーション能力を評価することで、協調性、豊かなコミュニケーション能力を育成する。	B					
				特殊無線技士の合格率90%以上、工事担任者の合格率60%以上を目指す。	B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・観点別評価について、教科担当に成績シートを配布するなどABC評価の基準が明確になるように改善をしていく。校内の教員研修に関しては、講師の許諾を得てビデオ撮影を行い、一定期間見ることが出来るようにしたい。また、学校全体で人権意識を更に向上させるために、言動を意識した環境づくりを行う。

・自転車交通事故防止やマナーUPを目指して、交通安全講話を学校の現状を踏まえた内容となるように、福岡県警や自動車学校などと協力して充実したコンテンツを目指す。街頭交通運動に関しては、本校生徒が地域の模範となるようにするとともに交通問題を考える機会として実施する。また、致命的な交通事故防止のためにヘルメット着用を推奨する。

・SNSの利用とその危険性について、匿名性や表に見えにくい部分での規範意識の醸成に向けて、人権・同和教育特設授業だけでなく、学習活動全般や部活動・学校行事など様々な機会で人権や情報モラル・マナーの向上を図る。また、SNS関連の講話やリーフレットを通じて家庭内での連携協力をお願いする。

・生徒の進路実現と社会人、職業人としての基礎を育むためのキャリア教育をさらに充実させるために、プログラム内容の精選と充実を図る。その一つとして３年生の進路研修を復活させ、進路実現に向けた意識を高揚させる。就職指導課と進学指導課の業務内容を精査し、業務の効率化と担当教員の負担軽減を図る。

評価項目以外のものに関する意見

・次年度の主な課題等国家プロジェクトとして長期計画の中で施設も充実し、ますます発展すべく学校づくりすばらしいです。大いに期待を寄せるものです。高校生としての自覚、行動、将来を担う子ども達夢が広がります。夢を叶える為に実現可能な目標の継続。先生方のご苦労ほんとうに大変ですが、よろしくお願いします。今年度はコロナ禍の感染対策が大幅に緩和され、従来の行事等実施できると思われます。地域行事で又皆様とお会い出来ます事楽しみにしています。
・ＳＮＳの取扱いについて生徒達に考えさせてほしい。人権問題やリスクについての考える力のきっかけ作りを各家庭と連携して取り組みをしてほしい。